

やさしさありがとう

優希は人の役に立ちたいと看護師になった。母はのぞみとつけたかったそうだが、父は優しい人になるように優の漢字を使ったかった。それで優希と名付けた。両親の願いに応えて優希はやさしい看護師さんになった。私はゆきちゃんと呼んでいる。私の顔に粉瘤が出来ているのを潰してくれた。優希は、三歳の子を持つシングルマザーである。

緑園クリニックは五十床の大きな透析専門の病院である。院長は久世学さん、五十七歳にしては若々しくて、職員からも患者からも慕われている。

ベテラン看護師の岩間優子さん、今井三也子さん、片平成美さんと子持ちママさんの田中裕美子さん三十三歳、斎藤愛さん三十二歳、藤戸優希さん三十一歳。

助手さんの三村良子さん、佐々木良枝さん、矢代静枝さん、氷見麗子さん、事務の今野智重子さん、富田恵美子さん、鷹取裕子さん、糺山明美さん。久世先生は、女性スタッフを娘たちと呼んでいる。

三十二歳の望月秀二技師長さん、薄秀健技師さん二十五歳、菊池陽太技師さん二四歳、内山裕雅技師さん二十三歳、みんな頼りになるス

タッフです。

敦子は、月・水・金が透析日である。透析はシヤントの血管に針二本刺してから、ダイアライザーの回路と接続してスイッチオン、透析と同時に除水もしている。三時間半の透析で血液をきれいにしてくれる。

久世先生は心胸比を確認してドライという基礎体重を決めている。余分な水分がついていると血圧が高くなるので、常に基礎体重まで除水し帰るようにしてくれる。終了ブザーが鳴り、針を抜き止血し、迎えを呼んでもらい、やっと解放される。

緑園都市クリニックで働いている人達はみんな優しい、本当に感謝しています。皆様ありがとうございます。

平成三十年四月十三日 鈴木 敦子